

令和7年度第1回千代田区産業振興連絡調整会議 議事録

- 日 時：令和7(2025)年7月29日(火) 午前10時00分～12時00分まで
- 会 場：千代田会館 10階 研修室
- 出席状況：出席委員12人
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、産業企画担当係長、観光・地方連携係担当係長、事務局2名
- 議題：
- (1) 産業振興基本計画の概要と改定について
 - (2) 令和6年度の取組実績の確認、令和7年度の取組状況と課題
 - (3) 産業コミュニティ成長促進事業について
 - (4) 千代田区×中央区アンテナショップスタンプラリーについて
 - (5) デザインマンホールの設置について

(議事要旨)

1. 開会あいさつ

2. 議事

- (1) 産業振興基本計画の概要と改定について
- (2) 令和6年度の取組実績の確認、令和7年度の取組状況と課題

<事務局から説明>

●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

●商店会の組織強化について、商店会も法人化に向けて進めたいが、事務的ハードルが高いことや、役員の高齢化の問題がある。また、普通の商店会と法人の振興組合を比較すると法人化のメリットがあまりないように感じている。商店会は任意で五、六人集まれば立ち上げできる。振興組合は、税務申告などの事務手続が大変であり、手厚いメリットが生まれるような政策を特に行政に願いたい。

➤商工観光課長) 区が振興組合にどのような支援をしていくかは今までも課題であった。法人化するメリットとして、自立的な運営ができるという点がある。例えば、事務員を雇って内部の運営をしっかりとさせられるメリットがある。現在はSNSで千代田区のブランドを使いながら自分の店だけでやれば良いと商店会に加盟しない店舗も多くなっている。今後、高齢化に伴って商店会との連携も難しくなっていくと考えている。区としては、商店会も地域のコミュニティの一つとして見ているため、今後何らかの対応をする必要があると考えている。現状はイベント補助金がメインになっているが、今年に入ってから様々な

検討を進めている。

●東京都の支援策も国の支援策も、振興組合も任意団体も区別なく、やる気があるところにはどんどん支援しようという方針に随分前から変わっているので、法人化を目指すということを行うのであれば、何らかの具体的なメリットがないと難しいと感じている。本当に法人化を推進するのか、少し疑問に思っている。

➤商工観光課長）会議で、委員の意見を頂きながら解決に向けていきたいと考えている。

●スタートアップの支援について、オンラインコミュニティは、どのような会員が属して、どんなコミュニティ活動をされているのか。

➤産業企画担当課長）参加者の属性について、大きく通常メンバーとそれを支援するメンバーに分かれている。通常メンバーは区内のスタートアップ、区外の事業者も含めて参加している。支援する側として、専門家、金融機関、行政機関が属している。

具体的な活動の内容として、オンラインコミュニティの運営はS l a c k（スラック）というオンラインツールを使い、中で情報交換ができるようになっている。区としては、今後どのように新たなビジネスやマッチングの組成ができることが理想である。ただ、そこまで出来ていないのが実情。今後どのようにオンラインコミュニティを活性化していくかを検討している。令和7年4月から、アンバサダーという形で、2名を指名し無料のオンライン相談にチャレンジをしている。併せて気軽に投稿や情報交換ができるよう、ビジネスに限らず、飲食店の情報を掲載するなど、雑談的な部屋を立ち上げたりしている。そのような形でオンラインの活性化を図っていきたいと考えている。

●中小企業に対するD Xの推進は大切で、推進の必要があると思うが、具体例がサイバーセキュリティセミナーの開催となっている。セキュリティを知ってもトランスフォーメーションするわけではない。現在だと、例えば生成A Iをどう使いこなして業務の中に入れていくのか、経営者が自分でプロンプト書いて実践できることが一番D Xに近いと思うが、今後の方針について伺いたい。

➤商工観光課長）東京商工会議所ではセミナー等を実施しているが、区がどうしていくかは非常に難しく、内部もまだ準備をしている状況であり、手がつけられていないというのが実情。様子を見て進められたらと思っている。

➤地域振興部長）千代田区でもデジタル担当の副区長を設置し、いわゆる狭い意味での業務効率化とか行政のオンライン化とかということだけではなく、東京都のデジタルサービス局が展開しているように、内にあるD Xと外の産業振興も掛け合わせたD Xというところまで持っていきたい部分はあると思っている。その中で経済産業省、東京都とどういう役割を果たしていくのかということになると、D X部門でもセーフティーネット的なところを基礎自治体として、まずはやるべきではないかと思っている。一方でスタートアップ振興にも力を入れていくことになるため、都や国と違う地域に根づいたD Xの推進について、千代田区という地域特性を踏まえながら、どういうところから取り組んでいったらいいのか、もう一段深く考えていきたいと思う。

●地方との連携活動の拡大について、まちみらい千代田も産業まちづくりの柱の一つに地方との連携を掲げているが、民間と一緒に支援している程度。今までは物販や、アンテナショップなどが中心だったが、今後新しい展開があるかと思う。それも含めて、具体的に進めていく進行のイメージなどあればお尋ねしたい。

➤商工観光課長 地方との連携については、今までマルシェなどで、地方の産品を東京で知ってもらうことが非常に多かった。今、地方は、人員不足の問題や区内宿泊費の高騰によって、東京に出てくるのも大変になっている。区としてどのようなところで地方と連携していくのが課題である。区内には多くの企業があり、特性を使ってやり取りができないかというところと検討している。例えば、千代田区にしながら、地方のデジタル的な作業ができないかということや、地方で、教育の観点で短期の留学を進めていくなど、新しい取組として進めていかなければと考えている。

●検討する段階で、まちみらい千代田や、民間などの団体とも協力して、行政だけでまとめるのではなく、スキームをつくっていただければありがたいと思っている。

➤商工観光課長 どのような調整ができるかも含めて検討する。

●教育留学という取組について、この取り組みはコロナ後から本格的に始まったもので、1～2週間単位で幼小中学校に留学できる制度で、移住と転校をしなくとも出席日数にカウントされるため、フットワークが軽く、全国の家族が地域の学校に来るという制度。五城目町も受け口になっており、令和7年5月に留学の窓口を開けた。即日に数十組ぐらい入り、受け止め切れなくなるぐらいになっている。今は2地域で居住や、教育することのニーズがすごく高まっていると思っている。都市から地方への一方向というよりは地方から都市への循環関係が生まれていくというところを千代田区がリードしていくと、とても意義があることだと思っている。ホテルに2週間泊まることは結構な富裕層でないと難しいため、ホームステイ型をつくるのか、中期滞在の宿泊環境を補助していくのかなどは一つ考え得るところかと思う。

●創業とスタートアップについて、女性×スタートアップを進めているチームと話した際に、神田の下町感のあるのが女性的にすごく向いているというか、ローカルなお店もいっぱいあり、神田祭みたいなコミュニティもあり、そういった場所から創業していくことが、自分としては素直だし、声をかけている多くの女性も神田に来てくれると、何だか安心してチャレンジできると話していた。5月に、女性×スタートアップのイベントをされたときにも、千数百人が参加していた。これからこの領域はすごく盛り上がってくるなという兆しを感じた。千代田区ならではの文化や土壌の上にどんなスタートアップが集積していくかというところを戦略的に考えていくことが良いと思う。例えば、女性×スタートアップを応援していくということや、上場企業が日本一多い区でもあると思うので、大企業とか上場企業とスタートアップがもうちょっと接するような仕掛けを少し意図的に打ってみるということも良いと思う。

●創業支援との関連性で言うと、必ずしも全ての起業家がスタートアップに向いているわけではない。相談に来る数百名ぐらいの女性たちも、大きくしていくスタートアップが向いている方は本当に一握り。多くの方は例えば、小さいお店をやりたいとかサロンをやりたいという方も結構いる。相談に来る方の中の一部は、創業支援側の支援体制とシームレ

スに連携したほうが、良いのではないかと思います。創業支援とスタートアップ支援の施策というのが相互にもう少し連動していくと、件数もより増えていくのではと感じた。

➤産業企画担当課長 スタートアップと中小企業支援の切り口について、貴重なご意見を頂いた。純粋にスタートアップ支援としても、ある程度千代田区の特徴を出しながら支援をしたほうがより地域としての盛り上がりや、地域の活性化に結びつくのではないかと考えている。うまく絡めて、区としても女性のスタートアップ支援にも取り組んでいきたいと考えている。

スモールビジネスとの連携について、現在区では、創業支援担当とスタートアップ担当が別々でやっている。ただ、お互いの情報を共有しながら、創業の窓口に来られる方でもスタートアップ色の強い方がいれば、スタートアップ支援の案内をしたり、コミュニティをご紹介したり連携していきたい。広く創業支援はまだまだ足りないところもあるので、できれば、まちみらい千代田の創業塾もあるが、創業塾に入る前の、例えば創業セミナーを区とまちみらい千代田で一緒にやるなど、新しいことに取り組んでいきたいと考えている。

➤地域振興部長 補足として創業支援、スタートアップ支援については、区が基礎自治体として何に取り組むのかという点を考える必要がある。もちろんユニコーン、デカコーンが生まれることを否定するわけではないが、やはり、地域課題、社会課題と掛け合わせていながら創業支援、スタートアップ支援というところが基礎自治体として取り組むべきところと思う。ただ一方で、伝統的な商業振興、産業振興ということだけでは対応できない、まさに女性の参画や、木材の活用、GX、再生エネルギーの促進など、すぐく課題横断的な取組と創業支援、それと社会課題の解決、都市と地方との連携という、かなり複雑な連立方程式になってしまう。非常に興味深いテーマが盛り込まれていると思っているため、うまく我々としても議論に参画し、スタートアップ支援ができるような形で取り組む。それに当たっては、まちみらい千代田が有するネットワークやノウハウなどどううまく連携しながら、今後のスタートアップ支援について、区とまちみらい千代田の役割等も含めて検討を深めていきたいと思っている。

➤商工観光課長 関連で質問だが、中小企業家同友会はかなり勉強会などをしており、女性部会があると伺っている。例えば、女性部会の中で、こんなことが課題だとか、やはり区と行政にはこういうところの視点を持ってほしいというものがあったら教えていただきたい。

●東京中小企業家同友会では、東京都全体で女性経営者が集まる女性部という組織がある。課題としては、最近会員数が同友会全体で減っているというのが一つ挙げられる。今までの議論の中で、起業希望者が多くいる中で、なかなか中小企業家同友会という勉強の場につながってきていないというのを感じた。創業塾などで学ぶことも非常に有益で必要なことだとは思いますが、一方で、知識だけではない悩みや、同じ経営をする仲間としての悩みを少し気軽に相談できる相手として、中小企業家同友会及びその女性部というのは非常にいい場ではないかなと思う。双方向連携みたいなのがもう少し進むと、お互いよりいいのではないかなと感じた。

●新たな観光資源の発掘・創出について、どのように資源の発掘し、PRを強化していく計画あるのか聞かせていただきたい。

自身の経験からだが、沢山のインバウンドの方が日本のサブカルなど、知っているものを探しに、神保町に興味を持ってきてくれていると感じる。神保町で、アニメや漫画というキーワードを聞くため、例えば特定のアニメショップのような、インバウンドをどんどん誘い込むような場所があるといいと思っている。神保町は大手出版社もあるまちなので、力を借りたら、たくさんの方が来る予感もある。

今一番困っているのは、インバウンドのお客さんは、家族全員トイレを使って帰ることが多く、週末はトイレトペーパーの補充ばかりしなければならない。有料化にしたいと思うが、印象が悪くならないかなど、誰に相談したら良いのかと思っている。全て解決するような、アニメのワンダーランドみたいなものに、トイレもつくり、お客様が満足して帰っていくようなことにつながっていくといいと思っている。

➤商工観光課長 1点目、資源の発掘に関しては、確かにそうだと思う。出版社も多くあるため、連携することはよいと思っている。出版社も、インバウンドも、我々行政としても、みんながいいというのがまだ、見つけられていない状況。今後、神保町に関しては地域としてどのようなまちをつくっていくか検討している。行政も委員の一員のため、意見を聞きながら現実的なところを探っていきたい。

2点目、トイレの件は、区としてもやり方を考えているが、厳しい状況。民間施設との協力についても検討したが、課題が多い。現在、神保町でトイレを新たに造る場所は、簡単には確保できず、全然進められていない状況。

➤地域振興部長 神保町のまちづくり協議会が立ち上がっている。再開発などで新たに立ち上がる施設に企業と連携していきながら、神保町を下支えする機能を担ってもらいたいと考えている。まちづくりと連携して引き続き検討していきたい。

●千代田区内は、まちそれぞれに特徴あるので、今、外国資本がどんどん日本に撮影に来ている。1日当たりの撮影費用もかなり落としていくため、1発当たりの撮影の地域振興の金額も多額になる。後々そこで撮影したと、聖地巡礼的な効果もある。他区の状況として、歌舞伎町は、東京観光財団や歌舞伎町の商店会と一緒に非常に活発にロケを誘致しようという形でうまくやっている最中。江東区もKOTOフィルムコミッションというのが7月にできている。令和6年、令和7年度にロケ地等PRというところで、ある種作品に絡むPRという形で結果が出ているが、千代田区としては現在窓口があるのか、もしくは今後作る計画があるのか伺いたい。

➤商工観光課長 現在、千代田区ではフィルムコミッション的な窓口の設置はしてはい。千代田区が管理している施設は使いやすいが、国や民間の施設だと難しいため、今のところ手を付けられていない。

➤地域振興部長 補足として以前は、フィルムコミッション的なところで収益を上げることに、千代田区ではあまりメリットが感じられなかった。ただ一方で、外国資本の撮影などで、まちが使われて、地域に経済的波及効果が可視化されると、地域でも考え方が変わっていくと思う。ただ、ニーズが高い秋葉原については、痛ましい事件があった過去の経緯に対し、安全・安心施策の拡充と併せて、一定程度地域の理解を得ることが必要

かと思っている。今後研究をしていきたい。

●ロケーションサービスについては、この産業振興基本計画の議論の中でも議論されているため、次期にどのような扱いをするか大きなテーマの一つになるかと思う。

●創業支援について3点区の意見を伺いたい。

1点目は、創業者数は大幅に増加したと記載があるが、創業者支援を利用できる方がある程度限定されているため、実際はもっと多いと思っている。例えば、シェアオフィスは条件により対象外であるが、千代田区内に施設が増えているので、創業窓口の相談、フォローアップ支援を受けた方、意欲が高い創業者においては対象とするなどしたらよいと思うが、今後の方針を伺いたい。

2点目として、創業融資に関して、第二創業については対象外だが、例えば、M&Aの取扱いとして、買取りのときの第二創業など、廃業型融資の支援があれば、利用の数や満足度が増えるのではないかと感じているが、ご意見を伺いたい。

3点目として、制度融資の利子、あっせんの利子補給における区民と一般と別れているが、物価高騰対策においても、区民の適用というのが広がるような改善ができればと考えている。区としての今後の方針を伺いたい。

➤産業企画担当課長 融資制度そのものについては、利用が減ってきている。今後多くの方に利用してもらうため、新たなメニュー、ニーズがあるのであれば、それも踏まえて検討をしていく。シェアオフィスの取扱いは、区として、区民への施策の充実というのが大前提にあるため、区民と区民以外の方での少し差をつけるということはある程度仕方ないと考えているが、どこまでの差をつけるかも含めて検討していく。

●回答は不要だが、検討して欲しい点として、人流データの活用は商店会イベントだけではなく、創業支援や、観光にも使える。ただ、データだけ提供しても、どのように使って良いか分からないため、使い方を含めて、様々な施策に展開し、人流データを活用いただきたい。

(3) 産業コミュニティ成長促進事業について説明

産業コミュニティの形成がある程度進んできたため、次の段階の成長へということで、二つの施策を行っている。アクセラレータープログラムとオープンイノベーション課題解決支援事業というのを強化する予定。

(4) 千代田区×中央区アンテナショップスタンプラリーについて説明 資料配布のみ

(5) デザインマンホールの設置について説明

➤地方連携担当係長 デザインマンホールの設置は、令和2年に「アトム、ウラン、お茶の水博士」の三つ設置している。現在、アトムのデザインマンホールカードを観光協会の観光案内所で配布をしている。今年、リラックマのデザインマンホール設置する予定。デ

サインマンホールカードは来年の５月ごろより配布予定。

●デザインマンホールは区内全域にはやる予定はないか。地方だと、かなり広範囲に設置しているところもある。千代田区も、その地域に合ったマンホール設置などしていけば、より楽しめると思うが、今後の方針を伺いたい。

➤商工観光課長 区としても実施したいが、条件として区道の歩道上、かつ下水道でないと設置できない制限がある。区道は狭いため、下水道がほとんど車道の上にあり、歩道上のマンホールをようやく見つけて設置をした。今後、例えば道路の改良工事や、再開発の際に、できる限り考えていきたい。

閉会